

平成三〇年度 一般入学試験 問題 (国語)

次の文章は、戸田山和久氏の「飛び出せ教養」という文章である。よく読んで、後の設問に答えなさい。(なお、本文中の*は、本文の後に注があることを示す。また、設問の都合上、本文を省略したところがある。)

幅広く豊かな知識は教養に不可欠だ、そして知識は人生を楽しくする。でも一方で、単に知識をたんまりもっているだけでは教養には足りない。私だけがそう思ってるんじゃない。*講義の中で、一年生にアンケートをとって見たことがある。「教養のある人」というのはどんな人でしょう、という問いに、自由に答えを書いてもらった。その回答をまとめて整理すると、こんな具合になった。回答総数は九〇件、重複あり。

- a 豊富な知識・学識をもつ 43
- b 常識・モラル・礼儀をわきまえて判断できる 40
- c 場をわきまえた判断・振る舞いができる 16
- d 幅広い関心をもち多様な視点でものを考えられる 15
- e 知識を行動・問題解決に応用できる 9

知識は教養の重要な条件だとしつつも、それ以外の要件をあげている。「単なるトリビア的知識ではない」と書いた学生もいた。その通り。では、教養とトリビアを隔てるものは何だろう。この問いを考えよう。いわば、教養の概念分析をやってみようというわけ。

ローランド・エメリツヒが二〇〇四年に製作・公開した映画に『デイ・アフター・トゥモロー』がある。こんなあらすじ。

地球温暖化による海流の変化が逆に氷河期を引き起こす可能性に、気象学者のジャック・ホールは a ケイショウを鳴らし続けていた。しかし誰からも相手にされない。ところが、ある日全世界を異常気象が襲う。東京では巨大な雹、ロサンゼルスでは竜巻、ニューヨークは豪雨と高潮に見舞われる。折悪しく、ジャックの息子サムは高校生クイズ大会に参加するためにニューヨークに来ていた。マンハッタンを突如襲った高潮から逃れるため、サムは友だちと一緒に公立図書館に避難する。ホツとしたのも束の間、雨が止むと今度は気温が急降下し始めた。ジャックの予測通り地球は氷河期に突入し始めたのだ。電話で助言を求めたサムに、ジャックは図書館から一歩も出るなど言い渡し、ワシントンDCから息子たちの救出に向かう……。

原題は『The day after tomorrow』つまり「あさって」だ。環境破壊し放題でも、明日は大丈夫かもしれない。しかし、あさってはわからんぞ……、というメッセージが込められている。明日とあさっての間にわれわれの想像力の限界が横たわっている。

とにかく見どころてんこ盛りの映画なんだ。おせっかいだが、その見どころにもう一つ付け加えよう。この映画は一種の教養論としても観ることができ。

話の都合上、サムとジャックが離れ離れになる必要があるわけだが、なぜそれがよりによって「クイズ大会」なの？ サムをNYに行かせるだけなら、もっとメジャーな行事で

も良さそうなものだ。バスケットボール大会とかブラスバンド大会とか。そして、なぜ図書館に逃げ込むのか。近くにグラントセントラルステーションもある。

①クイズ大会と図書館という設定は、考え抜かれて選ばれているはずだ。サムと同級生たちはクイズ部の部員である。何せ「ピサロに殺されたインカ帝国の皇帝は？」みたいな問題に「アタワルパ」とビシッと正解できるような連中だ。彼らは教養の必要条件であるIを満たしている。しかし、サムたちはまだ教養人ではない。

何が欠けているのだろう。それを考えるヒントは「おじさん」との対比にある。おじさんはb **ハヤク**である。トータルで一分くらいしか登場しない。役名も分らないので「おじさん」と呼んでおく。でも、すごく重要なセリフを言う。サムはジャックの助言通り、図書館にとどまって救助を待とうと提案するが、大多数の人たちは、逃げるなら今のうちと吹雪の中に出て行ってしまおう（そして全員死ぬ）。このとき、サムの言葉に耳を傾けて図書館に残るわずかな人々の一人が、このおじさんなのである。

おじさんが*ファイチャーされる第一のシーン。図書館組は凍死を避けるために本を燃やすことにする。おじさんは図書館の常連で相当の本好きのようだ。図書館に残ったのは、本と一緒に死にたいからかも。当然、燃やすなんてとんでもないと反対するが、じゃあ凍え死ぬ？ というサムの問いかけに、しぶしぶ燃やすことに同意する。で、本を暖炉に運ぶことになるわけだが……。ここで、おじさんと若い女性（この人も名前がないので、「おねえさん」と呼んどこう）との会話が挿入される。

おじ…（おねえさんが手に取った本を目ざとく見つけて）フリードリッヒ・ニーチェ？
？ ニーチェを燃やすなんてとんでもない。十九世紀でいちばん重要な思想家だぞ。

おね…カンベンしてよ。ニーチェなんて、妹に恋した差別主義者のブタじゃないの。

おじ…差別主義者のブタなんかであるものか。

おね…でも妹に惚れてたつてのは本当でしょ。

おねえさんも相当な読書好きで、しかもフェミニストのご様子。ちよつと後に、おじさんの第二の番がやってくる。本がパチパチ燃えている暖炉のそばで、人々がうたた寝をしている。おじさんは一冊の大きな本をしっかりと抱え込んでいる。

おね…それ何？

おじ…グーテンベルク聖書。稀観書の部屋にあった。

おね…神様が救ってくれるとでも？

おじ…いや。私は神を信じてはいない。

おね…それにしちゃ、ずいぶんしつかりしがみついているじゃない。

おじ…私はね、これを守っているんだよ。この聖書は初めての印刷された書物だ。だからこれは、理性の時代の夜明けをc **シヨウチョウ**している。私に言わせれば、書き言葉は人類の最も偉大な発明だからね。笑った方がいいが、もし西洋文明が減びようとしているのなら、私はそのひとかけらを残したいんだ。

さて、おじさんも図書好きで知識が豊富、サムたちも物知り。「人類初の印刷された書物は何でしょう」と尋ねたら、たちどころに「ピポーン。グーテンベルク聖書！」と答えてくれるだろう。しかしおじさんは、知識を増やすことを自己目的化したクイズマニアではない。サムたちがまだもっていない何かをおじさんはもっている。それこそ教養の「ブラスアルファ」部分だ。それは何か。

第二のエピソードで自ら告白しているように、おじさんは無神論者である。しかも、キリスト教をd テツテイ批判したニーチェが好きなのだ。だけど、西洋文明が滅ぼうとしているときに一冊だけ残す書物としては、ニーチェではなくグーテンベルク聖書を選んだ。これはいったいなぜだろう。

自分の好みで選択したのではないからだ。自分の好みを超越した「価値あるもの」がこの世にはある。おじさんは、好みじゃないものについても、自分を越えた価値に照らして判断できる。

というわけで、教養にはどうやら「自分をより大きな価値の尺度に照らして相対化できること」が含まれるようだ。もう少し敷衍ふえんしよう。まず逆に、自分を相対化できない、というのはどういうことを考えてみる。要するにこれは、自分がすべての判断の基準になるということだ。何事も、自分が好きか嫌いか、自分が理解できるかできないかで決める。こういう人は「Aにダメ」とかすぐ言う。自分の好みが果たして正当なものかどうか、より大きな尺度に沿って吟味することができないからそうなる。でもそういう人に限って、「私は自分の判断基準をしっかりと持っている」と思い込んでいるから始末が悪い。

教養ある人は違う。自分が特別だとは思っていないし、自分を越えた人類の知的遺産によって自分の幸せと生存が可能になっているということを知っている。何より、この世には自分を越えた価値の尺度があるということが分かっている。だから、教養ある人は決して「人好き好きだよね」といってBしない。そして、好みじゃないものについても、自分を越えた価値に照らして判断し選択することができる。

学生さんもこの辺のことはうっすら分かっている。II といった要件を求めていることから、それがうかがわれる。また、「常識をわきまえて云々」という回答も、自己の相対化と関係している。というのは、「常識」というのは、もともと身近な自分の好みを越えた価値尺度だからだ。辞書を引くと、用例として「ことの善悪／道理／礼儀／場所柄」などがわきまえる対象として挙がっている。これらはすべて個人の好みを越えている。それをわきまえているということは、超越的な判断基準が存在するのを知っていて、それに従って自分の振舞いをe トウギョできるということだ。

このように書いてくるとツツコミを受けそう。……ということは、教養をもつためには、なんでも社会の慣習に従え、空気を読んでみんなと同じようにしてろ、ってこと？…：そうじゃない。自分を相対化する、というのは、たんに自分の好みや欲求を、それを越えた価値に照らして吟味するということに留まらない。自分がたまたま身につけた価値観や、自分の身の回りで「常識」として通用しているものを、さらに高次の価値に照らして批判的に吟味するということも含まれている。

デートのときは男性が女性が奢おごるべしという「常識」があるとす。これに対し、ある男が、ぜったい割り勘じゃなきゃダメと主張する。お金を出したくないという自分の都合

で言っているなら、そりゃただのケチだ。しかし、別の仕方での常識に挑戦することもある。両性の平等だとか、そういうもつと高次の普遍的価値に基づいて、「男が奢るという常識は、女性をf レイゾク的立場において、男が女の自由をg ソクバクしていた時代の名残だからやめましょう」という選択もあるわけだ。その結果生じる振る舞いはケチ男と同じだが、中身はずいぶん違う。

というわけで、「自分をより大きな価値の尺度に照らして相対化する」というのは、たんに多数派の命じるままに生きるということではない。常識がより普遍的で高次の価値に反しない限りにおいて、それを尊重し自分の好みや欲求に優先させる、ということだ。

本を燃やすなんて耐えられない。私も本好きなのでその気持ちはよくわかる。人間なんていくらでもいるけど、ここにある本は一冊きり。それを燃やすくらいならみんな死のうぜ、などと口走ってしまえそう。でも、自分だけならともかく、人生半ばの若者たちにそれをh シていることはできない。おじさんは、サムに言い返されてあっさり態度を変え。おじさんは自分の意見に固執しない。

これが教養の（知識を超えた部分）の第二の要素だ。つまり、教養は、自分を超えた価値に照らして必要とあらば自分を変えていこうとする心のゆとりを含む。こういう心のゆとりを「闊達さ」とも言う。がんらい「闊達」とは、心が大きく些事にこだわらないことを意味するが、ここではコミュニケーションの場面に限って用いることにしよう。つまり、闊達さとは、相手の論が正しければ、いつでも自分の方を変えますよ、という余裕のある態度のことだ。

これに関していつも思い出すのが、哲学者の鷲田清一さんが指摘した、ディベート（討論）とダイアログ（対話）の区別だ。何かの講演で聞いたような気がするのだが、どの機会だったのか忘れてしまった。でも内容はよく覚えていて、鷲田さんによると、両者はまったく異なるコミュニケーションのあり方だ。ディベートは、ある論題について、一方が賛成、他方が反対の立場をとって議論しあい、説得力ある論証を展開できた方が勝ちになる。ディベートでは考えを変えると負けだ。でも、ダイアログでは、やる前と後とで自分の考えが変わらなかつたら、やった意味がない。変われなかつたら「負け」なのである。

どっちが優れたコミュニケーションということはない。どっちもできた方が良い。でも、どんな議論をやってもディベートになってしまう人っているんだよね。こういう人は、勝ち負けに異常にこだわる。そのため、話し合っ解決策やi ダキヨウ点を見つけたことができない。反論されると、それを取り入れて自分の考えを変更することができないから（そういうことをしたら「負け」と思うらしい）、反論に反論しようとしてどんどん変なことを言い出す。こうして議論は台無しになる。教養ある人は、闊達な議論ができる。だから反論されることを怖がらない。むしろ、反論の中から学ぶべき点を取り出して、自分の考えを修正していく。

以上の二つのプラスアルファ、つまり自己相対化と闊達さは、知識内容、つまり何を知っているかということではない。むしろ、「生き方のC」あるいは「人生へのD」と呼んだ方がいいだろう。では、教養ある人とたんなる物知りとは、知識そのものに違いはないのだろうか。次にこの点について考えよう。

おじさんもサムたちも、最古の印刷本がグーテンベルク聖書であるという知識をもっている。では、その知識断片の「所持のされ方」はどうだろう。違いはないだろうか。これについて、思想家の内田樹（たけの）さんが面白いことを言っている。

雑学的情報は「一問一答」形式で管理されている。「タイ・カップの生涯打率は？」
「三割六分七厘（りん）」……「雑学」とは一問一答的に設定された問いに「正解」を与える能力のことである。しかし、「教養」はそれとは違う。「教養」のある人は、トリヴィア・クイズにも強いので「雑学」者と混同されるけれど、両者はまったく別のものだ。教養は情報ではない。教養とはかたちのある情報単位の集積のことではなく、カテゴリーもクラスも重要度もまったく異にする情報単位のあいだの関係性を発見する力である。雑学は「すでに知っていること」を取り出すことしかできない。②教養とは「まだ知らないこと」へフライングする能力のことである。

（内田樹『知に働けば蔵が建つ』）

まさに、クイズ的知識（雑学的情報）と教養との違いについて語られている。クイズ的知識は知識断片がただ雑然と集積されているだけ。だから一問一答にしか使えない。サムたちの本の燃やし方にそれは現れている。彼らは手当たり次第に燃やそうとする。つまり、どの本（＝知識）も等価なのである。

これに対して、教養のためには、知識が全体として構造化されていなければいけない。まず、カテゴリーに分類され、それぞれに重要度が割り振られている必要がある。教養ある人はいろいろ知っているが、何が重要な知識で何がそれほどでもないかの判断込みで知っている。グーテンベルク聖書についての知識は、ウルトラ怪獣についての知識よりも大事だ、というようなことだね。そうすると、燃やして良い本と守るべき本の違いも判断できる。

その上で、カテゴリーと重要度を飛び越えて知識と知識が結びつき、ネットワークになっていること（関係性）が必要だ。ここでは「そういえば」がキーワードになる。日本の電機メーカーはちよびちよび投資を繰り返し引き際を見誤って存続の危機に陥った、という記事を読んだとする。「ん？ そういえば、どこかで聞いた話と似ているな。そうだ、第二次大戦の日本軍の戦い方だ」。このような類比によりカテゴリーの違う知識同士が「関係性」をもつようになる。そうすると、両者にはもつと似た点がないか、他に似た事例はないか、戦略ミスの共通原因は何か等々、いくらでも「まだ知らないことがあること」を知ることができる。探求が促される。こうして、関係づけられた知識体系は、新しい知識を要求し自己 **j** ゾウシヨクする。というわけで、教養には幅広く豊かな知識が必要だが、その知識が全体としてある種の構造をもっていることも必要なのである。

（注） * 講義 || 筆者の戸田山和久氏は、名古屋大学で哲学の講義を行っている。

* フィーチャー || 映画等で、一つの場面の主役となること。

（設問）

問一 **a** **j** のカタカナを漢字になおさない。

問二 **I**・**II** 入れるのに最も適当な「教養」の条件を、学生へのアンケート回答項目の a、e の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

問三 **A**・**B** に入れるのに最も適当な語句を、選択肢の中から一つ選んでその記号を答えなさい。

- A ア 機械的 イ 客観的 ウ 生理的 エ 論理的 オ わたし的
B ア 意見集約 イ 一致協力 ウ 相互承認 エ 判断停止
オ 話題転換

問四 傍線部①に「クイズ大会と図書館という設定は、考え抜かれて選ばれているはずだ」とあるが、本文の趣旨によれば、それぞれは何の隠喩と考えられるか、それぞれ五文字以内で簡潔に答えなさい。

問五 **C**・**D** に入れるのに最も適当な語句を、選択肢の中から一つ選んで、その記号を答えなさい。

- C ア スタンス イ デフォルト ウ ブラッシュ・アップ
D ア 接近 イ 態度 ウ 着眼点

問六 傍線部②に「教養とは「まだ知らないこと」へフライングする能力のことである」とあるが、教養があると、なぜそのようなフライングが可能になるのか、五十字以内で説明しなさい。

問七 波線部に「教養の「プラスアルファ」部分」とあるが、それはどのような内容か、本文を踏まえて、三点について、それぞれ四十字以内で説明しなさい。

問八 本文中には、ユーモアの込められた表現がいくつかある。そう思われる一文を、二つ、抜き出しなさい。